

## 災害時における応援協定を締結



▲株式会社ココカラファインヘルスケアと協定書を締結しました

市は「災害時における物資等の確保に関する協定」を株式会社ココカラファインヘルスケア（本社横浜）と締結しました。同社は、全国約1300店のドラッグストアや調剤薬局を展開し、島内では「ライフオート」の社名で4店舗（市内2店舗）を運営しています。

災害時には、住民生活に必要な医療品や衛生用品、日用品など同社が扱う約1万5千種類の物資を市の要請で優先的に供給していただけます。

## 自衛官募集相談員の委嘱式

自衛官募集相談員委嘱式が11月20日、市役所で行われました。募集相談員は自衛官募集についての広報宣伝活動の事務を担います。

### ◆自衛官募集相談員

- ※順不同、敬称略
- 石若 芳隆（賀集）
  - 岡田 功三（松帆）
  - 谷口 博文（松帆）
  - 轟 孝博（八木）
  - 眞野 正治（榎列）
  - 山下 登（賀集）
  - 中島 義晴（広田）



▲自衛官募集相談員の委嘱式を受けた人たち

## 地域おこし協力隊全国サミットinひょうご

都市地域に住む人が過疎地域などに入り、活性化に取組む「地域おこし協力隊」制度。この制度の一層の充実を図るため11月28日、29日の2日間、2回目となる地域おこし協力隊全国サミットが兵庫県で開催されました。

1日目は神戸市で全体会が開催され、約780人が参加。全国の各隊員たちによる活動報告が行われました。

2日目は分科会が開催され、参加者は県内4地域に分

かれ、現場で活動体験などを行いました。分科会の一つ、沼島には約70人が訪れました。

沼島地域おこし協力隊員が総合観光案内所の開設や物々交換イベント、周遊漁船「おのころクルーズ」など3年間の活動を報告。大原隊員は「地域とともに成長し、人間関係にも助けられた」と熱く、そして嬉しそうに語りました。

この後、ボランティアガイドによる沼島散策やおのころクルーズを体験しました。

## ポスターデザインで最優秀賞

「第2回地域おこし協力隊全国サミットinひょうご」の前に、同サミットのPRと地域おこし協力隊制度をアピールするためのポスターデザインが募集されました。多くの応募作品の中から沼島地域おこし協力隊員の大原浩さんが最優秀賞に輝きました。

大原さんは「日の丸」のモチーフで協力隊の大きな誇りと、赤い「糸」で人と人が出逢う奇跡を表現した」と話してくれました。



▲最優秀賞に選ばれた沼島地域おこし協力隊の大原さん

## 吉備国際大学からのお知らせ

◆大学連携事業としてのシンポジウムのご案内

①魅力ある農畜水産物直売場を目指して

― 美菜恋来屋への期待と今後の対策 ―

人口10万人の今治市に平成19年誕生した農産物直売所「まいさいきて屋」。売り上げ22億5000万円、出荷会員数約1300人（平成23年度実績）と日本最大級の農産物直売所です。

その施設を創設した西坂文秀氏をお迎えし、美菜恋来屋のあり方について様々な立場の人を交えて議論いたします。

▽日時 1月19日（火）  
午後1時30分

▽会場 同大南あわじ志知キャンパスC棟3階大講義室

②農林水産物・食品の地域ブランドから考える知財戦略

― 「地域ブランド」・「まちおこし」から世界に向けて、「日本ブランド」を発掘し、活力のある地方を創る！ ―

淡路島の魅力である農林水産物や食品を、地域ブランド、日本ブランドとして国際競争力をつけるにはどうすればよ

いか。ブランドとして保護し、活用していくための戦略をこの分野の権威である土肥一史氏、川瀬幹夫氏をお迎えし、本学教授の生駒正文が鋭く切り込んでいきます。

▽日時 1月30日（土）  
午後2時

▽会場 同大南あわじ志知キャンパスC棟3階大講義室

◎同大地域連携センター  
☎42・4708

◆「ナルトオレンジ」の情報提供についてお願い

吉備国際大学地域創成農学部では、今年度より「淡路特産「ナルトオレンジ」の六次産業化に向けた総合研究」プロジェクトを立ち上げています。

取組の一環として、現在、ナルトオレンジの生産・栽培状況、過去の経緯など、六次産業化に必要な基礎情報を収集しています。ナルトオレンジの生産・加工・流通に関わっておられる方（かつて関わっておられた方）、ぜひ情報をお寄せいただきますようお願いいたします。

◎同大地域連携センター  
☎42・4708  
E-mail: morino@kiui.ac.jp

## 日本消防協会から消防車両の寄贈



▲寄贈を受けた消防車両

このたび、南あわじ市消防団の装備の充実と機能向上を目的に、公益財団法人日本消防協会から「消防団防災学習・災害活動車両」の寄贈を受けました。

AEDトレーナーセットや煙体験ハウス等を搭載した防災学習車両として、または火災時の緊急車両として使用されます。

大谷 毅消防団長は「災害時発生し得る被害の最小化を目指し、総合的な減災に向けたさまざまな取り組みに活用していきたい」と話しました。

## 福良地区で夜間避難訓練を実施

近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震により県内最大の津波被害が想定されている福良地区で11月22日、夜間避難訓練が実施され、約610人の住民が参加しました。

今年度は神戸大学とパナソニックが共同で研究を進めているLEDを使用した避難誘導照明の実証実験がかわせて行われました。

午後7時、震度7の地震が発生し、淡路島南部に大津波警報が発令されたとの放送で

訓練が開始されました。

放送後、福良小学校に設置した仮設送信機からの信号で設置したLED避難場所表示灯と周辺に設置した屋外LED避難誘導灯が一斉に点灯。懐中電灯を持った住民が誘導灯を見ながら指定された避難所に避難していました。

福良小学校に避難してきた人たちは避難経路や避難に要した時間、LED避難誘導灯等の効果に関するアンケート調査に答えていました。



▲LED避難誘導灯(左)、誘導を見ながら避難する人たち



▲「おのころクルーズ」を体験する地域おこし協力隊員ら

ふるさと南あわじ応援寄附金 特産品贈答事業 2か月半で2億円突破！



▲南あわじ市を応援ください！

## ふるさと南あわじ応援寄附金

ふるさと南あわじ応援寄附金 (12月15日現在)

寄附状況の公表

区分	件数	金額
南あわじ市内	476件	64,645,749円
市外(島内)	85件	14,470,000円
市外(島外)	5,099件	256,115,974円
合計	5,660件	335,231,723円

詳細は市のホームページに掲載しています

ご寄附ありがとうございました。